
2005年春夏企画のポイント

東京都立産業技術研究所アパレル技術グループ 嶋

明

依然として不透明な社会情勢があり、潜在的な先行き不安から慎重な消費行動が継続しています。そのため今季提案では、「心と身体のバランス」や「調和の取れた豊かな生活」、「伝統的な文化」などを題材とした、精神性や安定感を求める傾向が目立ちました。また「贅沢さ」や「陽気な楽天性」を積極的に取り入れ不安材料を払拭しようとするもの、「新しいミニマリズム」を志向しシンプルな身軽感を表現する感覚も台頭しています。

■社会環境

- デフレの継続に伴い可処分所得が減少。これに伴い、消費行動は現実的な自分なりの満足感を見つける方向へ。
- 企業態は「提案型で市場リードを目指す企業」と「開発力をカットし売れ筋をコピーでこなす企業」の二極化が進展。
- 消費指向は、団塊や団塊Jr.世代が中心となって構成される。また、消費価値観は、個性化や多様化現象を推進する若者世代と、老後や健康志向の再編を活発化させている団塊世代を中心として確立される。
- 情報テクノロジーの進化により、在宅勤務など仕事のあり方が変化。これに伴う生活デザインの再編がある。また、対極にあるアンチテクノロジー志向も台頭。エコロジーやリサイクル技術などを中心としたバイオエコノミー的なデザインが進展する。
- 社会不安は、過去の安定感や郷愁を呼び

覚まし、過去のよき年代を振り返る「年代物の復刻」が見直される。また、「日本とは何か」など文化や伝統を問い直す現象が強まり、多民族文化がより流動的に出現する。

●欧州市場インポートものの日本進出が加速。よりブランド志向が高まる。

●2005年日本国際博覧会「愛地球博」（3月25日～9月25日）開催。

●世界オリエンテーリング選手権大会・愛知開催（8月10日～15日）。

■市場環境

●特徴的世代では、中高年が未知の老齡市場として急速に開発化。若者は新世代デザイナーたちが第2のDCブランドブームを構成。また、人口減少するキッズ世代では「アンダー・フィフティーン」と呼ばれる低年齢層が新しい色彩認識の感覚（原色や対比色活用など）で注目。

●世界の一流ブランドが売り場を求めて進展、日本への進出が強まる。またファッション市場に無関係な資本や投資参加が増加する。日本製品の独自性が問われるなか、SPA（製造小売業）的市場は厳しい環境となる。

●多様な市場の切り口では、ターゲットの絞り込みが進展し、マニアックなものや商品が持つ背景、また作り手の意識などが重視される。

■生活者環境

●景気の不安定要素を抑制するような、自分の気に入ったもの、わかりやすい、伝わりやすい、安心できる、元気になれる、楽しくなれる、幸せになれる、癒されるなどがキーワードとなる。

●物質消費型から時間消費型へと生活価値は変化する。外出では、体験や思い出作りなどを主とする「トリップタウン（町の散策）型」。室内では、ガーデニングやインテリアなどの空間を自分本意の美意識に作り替える「マイオンリーワン型」が求められる。

●懐古趣味は単なるデザインの再編だけではなく、不便ささえも新鮮とを感じるような、より内面的なものになっていく。

■新しいターゲット像イメージ

フェミニン&エレガンスの流れやネオ・コンサバティブな傾向が続きます。そして、今季は活動的でパワフルな遊び感覚や楽しみを追求する姿勢など、より積極的な「アクティブ感」のある表現がプラスされていきます。

■注目されるターゲット像

●日常的な金銭感覚がわかり「健康志向を意識したライフスタイル」や「オン・オフの時間の使い分け」が上手に取れる、臨機応変に対応できる人。

●この他、まもなく定年を迎える団塊世代のなかで「上手な余暇を具現化している人」。

●ますます低年齢化する、子供たちが注目するアイドルの動向。

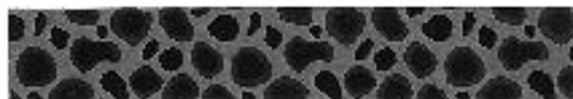
●おおらかで包容力のある、ポジティブでユーモアのある、自然体であるが理知的な妖しさもある人間などが注目。

SUMMER 2005

MASSAGE



CLEANSE, TONE AND SPIRITUALISE





fashion news SUMMER 2005

Summer 2005 www.fashionnews.jp/ and more...

FASHION NEWS



HOT SUMMER

FACTS



HIGH LIFE

UNISEX

■2005年春夏ファッション傾向

継続するエレガント傾向にスローライフがキーワードとして組み合わせられ、「優しさや繊細さ」、「穏やかさや心地よさ」が底流として追求されます。また、今季はより活力のあるリズム感のある方向も出現し、「健康的なスポーツ感覚」も付加されます。

デザインングの手法では、「温故知新」や「再生の発想」という視点が重視されます。過去から継承された伝統やファッション、また、シンボリックな物事などが見直され再活用されます。表現をするときの注意点では、創作するデザインを完結型として見るのではなく、常に変遷継承していくもの、また、これを捕捉し考察できるような「資料」の確保が大切となります。

1) 新しい仕掛けとして

- エコロジーなオーガニックな素材を生かしたスローエレガントなモノ。
- 過去（1950～60年代）の映画を題材として再編した「ノスタルジック、オールドシック、トラディショナル」なもの。
- 商品の活用場面が想起できる仕掛け。

2) 2005年提案イメージ

①ルーツ：ROOTS

時を経て蓄積されてきた伝統文化。それを克明に映し出す、代々受け継がれてきた陶磁器や家具。未来と過去の移りゆく時の狭間で変質する素材へのこだわり。

- ・古代遺跡
- ・石の文化：木や紙の文化
- ・東西文化のルーツを見直す

②ユニ・セックス：UNISEX

都会の中に溶け込む控えめで簡素な生活。だが、均一に見える外面に対し、内面は多様化していく。そんな矛盾点を「クール」に「実利・実用」的に包括してしまう新しいミニマリズムの台頭。

- ・ストイックでシンプルな新感覚

- ・マスキュリン（男らしい）&フェミニンスタイル
- ・ポストミリタリーのユニフォームスタイル
- ・画一的なスタイルが演出する突出の個性

③エネルギー：ENERGISCH

日常的なものからの脱却。ダイナミックなリズムにうねり躍動するラテンのカーニバル。ハレとケを使い分け、今は自分を未知の世界へ誘う「ハレ」感へ積極的にシフトする。変身願望。

- ・非日常の日常。鼓動と熱気
- ・メキシコ、北アフリカの民族衣装にヒントを得たエキゾチックスタイル

④ラグジュアリー：LUXURY

即興的に演じられるストリートカジュアルファッションやチープなスタイリングからの脱却。長い年月の中で煮詰められた素敵なエッセンスを「大人の上品さ」としてエレガントに着こなす、粋で洒落たスタイル。

- ・オーセンティック（確実な、本物の）ライフ。
- ・トラディショナル。
- ・フレッシュなクチュール感（一品生産）。

⑤バランス：BALANCE

夏の長期休暇を避暑地で過ごす。ゆったりとした時の流れのなかで「心と身体の調和」を刻む。それは単に過剰なエコ感覚や自然志向ではなく、レトロチックな自己の原体験を呼び覚ますような物事で演出される。

- ・くつろぎのスローライフ。
- ・海辺から吹く風。
- ・レトロスポーティ感覚。

3) 注目色彩

●活力のあるエネルギーな色彩が台頭。多彩な色を大胆に楽しく使うことが求められるカラフルなシーズンとな





る。

●色相は、オレンジ、イエロー、グリーン、パープル、レッド、ピンクと多彩な色が幅広く増加。一方、これまで目立っていたブルーやブラウンといった色が減少。

●色調は、より鮮やかな明るい色が注目。中間色調（ミッドトーン）が減少。

●配色は、「ビビッドカラーや蛍光色」といったインパクトのあるカラーと、対照的に穏やかさの感じられる「ニュートラルカラーや透明感のあるパールカラー」との相互作用。「鮮やかで陽気なカラー」と「シンプルなエッセンスカラー」の組み合わせなどによって実現される。また、色復活の流れが進展するなか、ニュートラル系の色が配色に不可欠なものとして再浮上。

●注目される色彩のインスピレーション源では、ロマンチックな美しさが内在する「はかなさや脆さ（フラジール感）」。「迷彩感やアニマル柄」をパステル調で表現する曖昧さのひねり。植物園。南国の動植物、昆虫、果実。また、ビタミンカラー。月、夜空、宇宙など。

4) 注目素材

●「リサイクルやエコロジー」、「健康や美容効果」、「安心や安全」など環境向上素材。

●競争力の高い「ジャパノクオリティ商品」。

●マニアを鼓舞するような「超テクニク、クラフト素材」。

●注目感覚は「超ドライ、超ウェット、超クリーン」。

5) 注目柄

●モチーフを微妙にぼかした不鮮明・不規則な柄。古代文明、世紀末を象徴する絵画、砂状・粒状・粉状のテクスチャー効果。ひび割れた陶器や和紙の表面効果

●無地調。都市の建築物を思わせるリピート柄、都市環境がモチーフに。繊細なチェッ

クヤストライプ。ユニフォームやワークウェアを思わせる控えめなベーシック柄。ヘリンボーン。オーバーダイやクロスダイによるミックス。シネ調のぼやけた効果。インダストリアルなムードのロゴやサイン。

●エキゾチック&グラフィック。カーニバルの衣裳のような華やかで大胆な柄。トロピカルモチーフ（極楽鳥や両生類、蝶々や熱帯植物）のプリントやジャカード。多色使いのマドラスチェックやストライプ、サイケデリック柄。ラッセルによる幾何学柄やジグザグ柄。豹やゼブラなどのアニマル柄。

●ポップ&ラグジュアリー。チェックやストライプ（繊細で甘さを感じさせるカラフルなもの、シンプルでクリーン、ギンガムチェック、先染めタフタ）。サマーツィード調の表面を点描効果のプリントで。パステルカラーによるにじみ感のある抽象柄（スイーツ、ペット、キャラクター、デージーなど）。箔プリントやスパンコール、パール、ビーズのアクセント。

●アールデコ調や手書き調の幾何学柄、ドット、スポット柄、バウハウス風なグラフィック柄。渦巻き、螺旋状。レトロ・モダンなスカーフやネクタイの柄。ストライプ（オーニング、デッキチェア、メンズシャツ、マリナーボーダー）。フラッグ（旗）モチーフ。ステンシル調。

6) 靴、バッグ、アクセサリーのイメージ

①靴：足への負担が少ないナチュラルな形態のものが求められる。

●カジュアルスポーツ系では、タウン感のスニーカーが注目。軽快なタッチの白が基調でアクセントカラーに様々な色が用いられる。素材はナイロンや合成皮革、メッシュなどで、表面効果はマット調から光沢のあるエナメルまで多様。

●レディスシューズでは、おだやかな丸み

HOTSTYLE

TALL AND SHORT FOOTWEAR



BAG...



DIVINE JEWELS



のものに花などの植物をあしらった形で、暖色系のオレンジ、レッド、ブラウン系の色みを用いたものが注目。素材は、起毛素材で光沢のあるソフトな表面感。

●ミュールは、ポインテッドトゥ・タイプで、アニマルプリントなどの柄をあしらったもの。白やキャメルを黒と組み合わせたシャープなコントラスト感のある色使いで、ハラコ（腹子-牛の胎児の革）とメタリック、ビニールとスタックなどの素材で。

●パンプスタイプでは、手触り感のよいシンプルなデザインで、少し艶のあるライムグリーンや白を用いたもの。

●装飾感のある靴では、細ヒモのアップパーでウェッジヒールタイプ。素材は、ソフト・ゴージャスなヌバックで、表面はマットなメタリック仕上げ。

②バッグ：変化に富んだものとシャープな印象のモノの二極化。共に爽やかな色使いが求められる。

●装飾的なバッグでは、抑制の効いた動植物から発想される柄で、ややクラシック調のものが注目。絹や綿素材で、柄を生かした刺繍効果やタック、ギャザーを用いたもの。透け素材で二重仕立てのものなど。

●シャープなタイプのバッグでは、ソフト感覚のものでヌメツとしたウェット感のあるタッチが好まれる。

●トラベルバッグでは、キャメル色で麻地やキャンバス、タンニンレザーを用いた素材。風合いはハードとソフトの組み合わせで、おだやかな丸みを持つ、中から大型のもの。

●その他、財布などの小物類では、皮革に手ぬぐい感覚の色をあしらった和もの調がさらっとした新鮮さを生む。

③アクセサリ：動植物から発想された形が注目。

●プリミティブな石やランダムな長さの

チェーンを束ねたようなボリュームのあるロングネックレス。ゴージャスに揺れるシャンデリア型のフープピアス。また、パールやクリスタル、シルバー、ボーン、べっ甲などを組み合わせ、古典的なものとはひと味異なったひねりを効かしたものなどが注目される。

■「2005年春夏企画ポイント」は、東京都立産業技術研究所が発行する情報誌「アパレル・デザイン・インフォメーション(ADI)」第60号の作成資料を基にまとめました。

連絡先：03-3624-4049